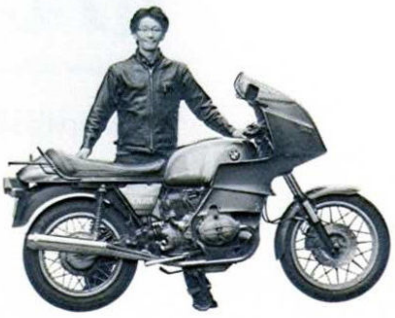

本誌編集部員
中澤孝志
R1150RからBMWライフをスタート。その後、R100RS（81年式）とR100GS（88年式）の2台OHVオーナーに。最近乗るのは、なぜかGSばかり!?

チョイフルBMWとうまく付き合う
R100RS&R100GS
完調化大作戦

vol. 19

最新のフルフェイスヘルメットを買ってみた

写真&文／中澤孝志

ロングツーリングでも高い快適性が得られます

ここ数年、通勤からツーリングまで、ジェットタイプのヘルメットを使っていることが多い。その理由はさっと着脱できる利便性の高さから。いちいちメガネを外す必要がないし、とにかく面倒くさくないからだ。

ただ、ロングツーリングや高速道路を走り続けるときなど、風の巻き込みや音が大きいから、結構疲労につながっているのも確か。というわけで、久しぶりにフルフェイスの最新型を買ってみた。

選んだのはSHOEIのZ・7。もともとこの前モデルとなるZ・6を使っていたことがあり、軽量・コンパクトさが気に入っていた。そこで、この4月に発売されたばかりの、グレードアップされた新型を使ってみることにした。

"軽く・コンパクト"がコンセプトのZ・7は、シェルサイドに入れられたカットラインのためか、コンパクトな帽体にもかかわらずとても被りやすい。被り心地もよく、過ぎた圧迫感もないのも好印象。そして被ってからの軽さも際立っている。さっそく、テストをかねてGSで走り出してみた。

高速道路で風圧を受けながらの走行も快適で、たとえば横風で車体や身体が振られるような中でも頭部はとても安定している。試しにZ・6と比較してみたが、風切り音や巻き込み音が格段に小さくなっているのが分かった。

SHOEIらしく、ベンチレーション機能も優れているからこれからの季節にぴったり。これなら、ロングツーリングがもっと楽に、快適にできること間違いなし！

ツーリングでも高い効果を生む軽量・コンパクトなSHOEI Z7
"軽量・コンパクト"が特徴のSHOEI Z-7（価格：4万8600円）。そのコンセプトどおり、軽く、小さいのはもちろん、徹底した風洞実験による優れた空力特性も特長のひとつだ

1.前頭部には3カ所のインテークホールがあり、内部に走行風をスムーズに導入。グローブをしたままでの操作性も十分　2.スポイラー効果を併せ持つエアアウトレットは、ヘルメットの安定性と効率のいい熱排出を実現　3.独特なカットラインにより着脱を容易で圧迫感のない被り心地を実現

前作Z-6（左）に対し、Z-7は100km/h走行時で、ドラッグ（後方に押し付けられる力）で5%、リフト（浮き上がろうとする力）で1%の空力性能が向上